



# つながり

～やさしく かしこく たくましく～

第4号  
令和5年9月22日発行



山口大学教育学部附属幼稚園

## やさしい言葉が通い合う幼稚園に

副園長 高田和宜

2学期が始まり一ヶ月が過ぎようとしております。それぞれの学年で、友達とかかわる姿に成長が見られる今日この頃です。花組では、感情を態度や表情で示すことから、言葉で伝えようとする事が多くなってきています。風組では、友達がしていることに興味をもち、大勢で自動販売機やくじ屋のなどお店屋さんを同時にする姿が見られます。星組では、友達が跳び箱や鉄棒に挑戦する姿を見て「自分もやってみよう」と取り組む姿やリレーの勝ち負けでチームが一喜一憂する姿も見られます。このようなかかわりの中では、微笑ましいやりとりもあれば、「いれて」「だめよ」「勝手に使わないで」「どうせ無理」など、相手を悲しい思いにしてみよう言葉も飛び交うこともあります。その度に保育者がかかわったり、友達が仲介したりしながら、それぞれの思いを言葉で置き換えながらどのようにするとよいかを考えたり、伝え方を教わったり、相談したり、あやまったりして友達とのかかわり方を学んでいる最中です。友達と一緒にすることで楽しめる体験や一緒にすることで役割を果たせたり、達成感を味わったりする体験などを繰り返すことで協働性を発揮して学び続けるやまぐち学園の子どもに育てていきたいと思っております。その基礎を培うのが幼児期の主体的な遊びの場と安心して自分をしっかり出せる雰囲気です。

今年度の全国国立大学附属学校連盟（幼稚園、小、中、高校）の協議会での文部科学省の講話での話題は「いじめ対策について」が中心でした。学校教育の課題としてショッキングなデータも挙げられました。①「514」昨年度の子どもの自殺数（増加傾向） ②「24万」不登校の数（増加傾向） ③「6人に1人」学校が楽しくない（6年生） 附属学校は一般の公立学校に比べて100人当たりの出現数は少ないのですが、増加傾向は同じような曲線で表されていました。このような困難な状況にある中で高めたい能力は以下のような非認知能力であることも示されました。（頭文字をとってGRIT）

- ① Guts 困難に立ち向かう度胸
- ② Resilience 失敗してもあきらめない粘り強さ
- ③ Initiative 自らが目標を定め取り組む自主性
- ④ Tenacity 最後までやり遂げる執念

これらの非認知能力を育むために、幼児期の主体的な遊びが有効であることも示されています。

いじめ・不登校の対策として、早期発見と個人で対応せず組織対応することが望まれています。平成25年6月にいじめ防止対策推進法の成立に伴い附属山口小・中学校ではいじめ防止基本方針をつくっています。幼稚園も幼小中一貫して取り組むため、今年度案を作成し大学とも協議したのち9月のPTA理事会で報告を済ませ、ホームページへ載せていますのでご覧ください。幼児期の発達の特性を踏まえたものになっております。幼児期はいざござがつきものです。日々の優しいかかわりの体験を増やし、言葉を育てていくことを園と家庭とで一緒に進めていきたいと思っておりますので、ご協力お願い申し上げます。